

## 令和元年度 第1回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録要旨

【開催日時】 令和元年6月4日(火) 15時15分から16時18分まで

【開催場所】 紀の川市役所 本庁2階 市民協働スペース

### 【出席者】

○紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会(委員8名内7名出席)

中谷委員(和歌山県那賀振興局地域振興部企画産業課 課長)

仁藤委員(近畿大学生物理工学部地域交流センター センター長)

野村委員(紀の川市立地企業連絡協議会 会長)

飯田委員(株式会社日本政策金融公庫和歌山支店 支店長)

前島委員(和歌山公共職業安定所 所長)

林委員(紀の里農業協同組合総合企画部 部長)

折居委員(紀の川市自治連絡協議会 会長)

【欠席】中村委員(株式会社和歌山放送 代表取締役社長)

○事務局(企画部 企画経営課)(3名)

角企画部次長兼課長、児玉、西川

○市担当課(6名)

農林商工部 農林振興課:木村課長、同課:和泉副主任、観光振興課:室谷課長、

同課:南條主任、同課:瀧本主事、企画部 地域創生課:峰田主任

○傍聴人(0名)

### 【会議の概要】

1. 開会(15:15)(司会:角次長)

2. 会長挨拶

紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 仁藤会長から挨拶。

3. 委員等紹介

委員及び事務局・担当課職員の紹介

#### 4. 議題

##### ○議長（仁藤会長）

「会議を公開」するために簡潔に取りまとめた議事録と写真の公開並びに音声録音の承諾。委員の過半数以上が出席しているため、会議が成立していることを報告。

##### 議題 i) 「平成 30 年度地方創生推進交付金の効果検証（案）」について

平成 30 年度に地方創生推進交付金を活用して実施した「紀の川市フルーツエクスポート推進事業」及び「紀の川フルーツ・ツーリズムビューロー推進による地域ブランド力強化事業」事業について、効果検証シート等（資料④）をもとに説明。

##### 【質疑】

委員：インバウンド（外国人旅行者）向けのフルーツ狩りやそこから宿泊への誘導ができれば。

特に空港での果樹の販売など（成田空港では事例があります。）により、外国人旅行者を誘導し、紀の川市を観光してもらうことで、市の知名度を高め、輸出にもつなげるといふ発想もあります。

委員：審議会の意見には、インバウンド（外国人旅行者）に関する内容も、記載の必要があるかもしれません。

委員：「紀の川フルーツ・ツーリズムビューロー推進による地域ブランド力強化事業」における対象マーケット、ターゲットは国内観光客か海外観光客か、それとも両方でしょうか。

事務局：経営戦略における事業構想では、国内は近畿・京阪神にお住まいの方（マイカー等で来ていただける距離）、また、貴志駅には 8～10 万の訪客があり、アジアを中心とした訪日客も併せてターゲットとしています。

アジア圏では、特に台湾・香港からの訪日客が多く、最近では、タイからの個人観光客が増えており、DMO での PR の中では、特にフルーツピッキング（イチゴ狩り等）に興味を示されることから、今後の運営の中で、受け入れ体制が整えば、可能性は非常にあると感じています。

委員：事業目的の中の、「交流人口の増加及び移住・定住人口の増加を図る。」の意図は？

事務局：移住・定住に繋げることは最終的な目標となりますが、まずはDMOのコンセプトにもある「フルーツ体験」等を通じて、地域の皆さんと一緒に、紀の川市のファンづくりを進め、併せて、「フルーツのまち」というブランド価値を高めることで、移住・定住人口の増加だけでなく、農業振興や地域活性化等にも繋げていくことが目標です。

委員：ファンづくりの一段階上の移住・定住となると、生活基盤が確立できることや、ビジネスチャンスがあるなど、最終目標に至るまでのストーリーを明確にする必要がありますね。

事務局：移住を希望する方の中で、「フルーツのまち」ということで、農業をやってみたいという声も聞くこともあり、農業で生計を立てられる仕組みづくりも必要だと考えています。

委員：タイはフルーツ王国と呼ばれていますが、例えばタイで農業に従事している方たちとの交流といったような取組みはありますか。

事務局：現状は質問のような、海外との交流・海外からの移住という面までは至っておらず、海外観光客を増やし、紀の川市を多くの人に知ってもらうことを当面の目標としています。

委員：先ほどからの議論のとおり、農業振興を移住者を呼び込むための素材とする内容について、審議会のコメントに加えていただきたい。

委員：差別化を図るところが難しいという記載の点で、紀の川市の「売り文句」、価値がある、優れているというコンセプトが重要だと思いますが、現状はどのように考えていますか。

事務局：差別化が必要だという点は認識していますが、現時点の総合戦略においては、シティプロモーションや近畿大学との連携をもとに、「フルーツのまち」というブランド価値を高め、紀の川市を知ってもらう、興味を持ってもらうことで最終的に移住に繋げるということで、差別化という面でのコンセプトにはなっていないと感じています。

委員：一年中フルーツが楽しめるという点は、一つの差別化のためのコンセプトになる。他地域にはない、紀の川市の強みであると感じています。

事務局：観光地域づくり戦略構想からの引用ですが、「関空に（世界に）最も近い J A P A N フルーツのまち」、「お手軽に一年中フルーツ体験ができるまち」ということで、J A P A N フルーツの海外における価値観、関空からアクセスという点は、差別化のポイントではないかと考えています。

また、訪日の教育旅行（中国・東南アジア等）の誘致も検討中であり、紀の川市の魅力を、世界に発信できればということで、取組みを進めているところです。

委員：関空とのアクセス面からも、ターゲットは海外と明確にしたほうがいいのではないのでしょうか。また、海外からの教育ツアー・留学・就労・移住など国内も含めて様々なピースが考えられるが、「交流人口の増加」を「移住・定住人口の増加」に繋げるためには、戦略的な思考が必要。

若者を呼び込むという視点から、例えばタイの農業高校など農業に関心のある若者を育てている機関と連携することで、紀の川市に誘致するなど、未来への可能性が広がるような構想も考えられます。

K P I 実績も伸び悩んでいる状況からも、今後の起爆剤となるような取組みが必要ではないのでしょうか。

事務局：「フルーツのまち」という強みを活かし、アジアを中心に農業高校や農業に関心のある学校の誘致についても受け入れ体制を検討しています。あわせて、市内の教育機関（高校・中学校・小学校）と連携できる仕組み、また、市内だけでなく、紀北農芸高校との連携も考えています。

教育旅行については、和歌山県も力を注いでいることから、県との連携を密にし、旅行者ともタイアップしながら誘客に向けた計画を検討します。

委員：海外の農業専門学校は生徒数も多く、コンタクトをとれば、必ず日本の先進的な農業技術に興味を持ってくれるはずです。

フルーツ県は全国に数多くあります。先進的な取組みとなるように、スピード感を持っていち早く取り組んでいただくことを期待します。

議題 ii) 「令和元年度地方創生推進交付金の申請内容」について  
資料②に基づき事務局から説明。

【質疑】

- ・ 委員からの質疑・意見なし。
- ・ その他の質疑・意見なし。

6. その他

次回（第2回）審議会は、8月下旬に開催予定です。

7. 閉会（16：18）